

関野常勝

(民主クラブ)

山部地域の活性化は

問 太陽の里周辺整備の課題とふれあいの家の通年営業の考えは。

答 施設の中では老朽化が進み20年以上経過している状況であり、現況を見ながら計画的に整備するなどの対応を検討する。

ふれあいの家の通年営業の考えは、冬期間の誘客は非常に厳しいことが想定されるため、现阶段では困難である。

問 ふれあいの家の通年営業での指定管理以外の活用は可能か。

答 指定業者が自主的に運営することは可能である。ただし、適用外に基づく自主的な事業となることを理解していただきたい。

問 山部地域の観光資源を利用した滞在型観光の推進と新たな観光資源の開発と活用の考え方は。

答 山岳景観と農村景観が重要

な観光資源と考えている。新たな観光資源の開発には、新たな施設の建設ではなく既存のものを活用すると共に、未利用の市有財産の有効的な活用も視野に入れる。

活用方法においては、既存の農業体験に加え山部@まるごと体験村、観光協会など連携する中で推進を図る必要がある。

問 山部地域の温浴施設の必要性についての見解は。

答 山部いきいきセンターは、公衆浴場対策であり、又、ふれあいの家、宿泊棟についても、施設の目的に応じ利用されているので、今後の利活用についても、目的に沿った形で推進したいと考えている。



山部いきいきセンター

大栗民江

(公明党)

公共施設の老朽化対策は

問 市が保有する施設の老朽化の現状や費用確保の取り組みは。

答 全482棟の内竣工後30～40年は135棟28%、40年以上は75棟16%。庁舎(市庁舎・文化会館・スポーツセンター等)は、庁内に検討委員会を設け手法や財源検討を開始する。

問 自治基本条例の検討を控えていることを考えると市の施設トータルで、行政と市民が情報共有できる白書が必要では。

答 必要に応じた情報提供は個別対応が可能であり、施設白書の作成は現在予定していない。

橋梁等の老朽化対策は

問 防災・減災の視点から緊急時に通行を確保すべき富良野市指定の道路には6つの橋梁があるが、老朽化への取り組みは。

答 50年経過が1橋ある。指定路線の橋梁は次年度以降、補修・改修・架け替えを含め検討していく。



火葬場手前の老朽化した道路橋

市職員の持ち家住居手当

問 一般的に住居手当は賃貸時に補助という理解をしているが、本市は持ち家でもこの手当がでている。市の制度開始は。

答 国に先んじ昭和45年に月額5千円でスタートし、昭和51年4月に月額6千円に引き上げ現在に至っている。

問 人事院は「民間では自宅の維持管理費の補助を目的とする手当はほとんどない」等として地方にも見直しを進める動向。市の今後の見直しの考えは。

答 当面は継続すべきものと考えている。支給現状は、24年4月1日現在134名、972万円。